

「芽吹きの家」会員の絵手紙から



油科喜恵子（平滝）



油科はる（平滝）

村の歳時記

1月「道祖神」…小正月行事として各集落ではほとんど焼き(松焼き)や道祖神を祀って無病息災を願う。



村の生き物

ブッポウソウ

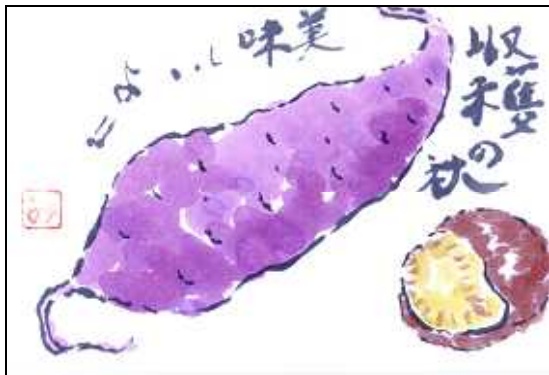


信州大学中村浩志教授が栄村自然学校の講師で来られたとき、平滝の営巣地で巣箱からブッポウソウのヒナを取り出し、見せてくれました。まさに「くちばしが黄色い」ヒナ鳥でしたが、羽は既に鮮やかな群青色を呈し、将来の美貌が約束されているようでした。

村の鳥。長野県の天然記念物です。



上倉かよ子（平滝）



油科みよ子（平滝）

栄村から季節のたより

たっしゅかえ

たっしゅかえ:「お達者ですか」「お元気ですか」の意の方言

山から里へ紅葉が下りてくる

ごあいさつ

「たっしゃかえ」と呼びかけると、「たっしゃだよ」という元気な声が澄みきった青空を響きわたって来ます。そんな声が聞きたくてふるさと通信をお届けします。

栄村の秋は、蒸し暑かった夏から一気にやってきます。今年は迷走台風のせいもあってか、肌寒い9月でした。10月になりようやく晴天が続き、稲刈りも順調に進みました。畑では、大根、野沢菜、白菜などの秋野菜がみずみずしく育っています。山々はというと高い山から紅葉がはじまり、里も少しずつ色づいてきました。

穏やかな日中とうってかわり、朝夕はすっかり人肌恋しくなりました。清少納言「枕草子」より『秋は夕暮れ。夕日のさして山の端いと近うなりたるに・・・』が思い出されます。千年の時を経て、なお現在の風情を見事に言い表していると感じられるのは栄村に住んでいるからでしょうか。そんな風情を味わいに、ゆく秋を満喫しに栄村へぜひいらしてみませんか。

それではまたお便りします。お元気で。

2008 年秋

栄村絵手紙芽吹きのかい

会長 渡辺つや子

カエデ:名称の由来は、葉がカエルの手に似ていることから「カエルデ」と呼ばれ、それが転訛したものとされている。